

倉本 到

大阪大学

人の繋がりは 大事 {だいじ／おおごと} である

大学の先輩にあたり、有名 bot 「あくあたん」という超強力な武器をお持ちの水野先生に「引き出しが多い方」とバトンを渡されたのですが、私よりもあくあたんの方がよっぽど引き出しの数が多いのではと思いつつこの大事をお引き受けしました、くらもとと申します。

その水野先生が前回似た話をされていましたが、人の繋がりは大事である、というのはくらもと家の家訓の1つであり、父親からは「大学に行ったら勉強はもういいから人の繋がりを大事にしろ」と言われておまして、それから一度も大学を出ていない私としてはこの家訓をいまだ守り続けているわけです。本会誌とくらもとの関係は2017年1月号の特集記事にてゲストエディタを拝命したことにあるのですが、エンタテインメントコンピューティング分野の広がりを読者の皆様に伝えるこの特集で、これまで培ってきた人の繋がりが役立ったことはいまでもありません。改めまして執筆いただいた皆様に感謝を。

さて学生時代あまり研究業界で社交をしてこなかった私に訪れた「人の繋がり」に関する転機は2つありまして、第1はあちこちの学会やシンポジウムで質問をしまくったことで、これは特に何かを狙っていたわけではなく、素直な気持ちで質問していただけなのですが、どうやら EC 研究会にはやけに厳しい／鋭い質問をする若いのがいるぞという認識があったようで、その後の懇親会（ココ重要）で質疑などに関してざっくばらんと話させていただくうちに、話す相手の方が著名だったり実力者だったりしたということが多々あり、もし先にその方が有名人だと知ってたら絶対腰が引けていただろうなと思ったときにはもう遅くて後にも引けず、またときにはそういう方からまた別の方を紹介されたり、さらにほかから「あの著名人と喋っている人（私）も有名人ではないか」という認知をされると、あとは手に負えないレベルで広がっていったように感じます。第2は今年も放送しております EC シンポジウム広報のラジオ番組で、私が実行委員長を拝命した2010年の第1回実行委員会後の懇親会（ココ重要）の場で、一般の方々にデモ発表を公開するの

であれば放送を利用するのがよいでしょう、と地域コミュニティラジオの話になり、その場にいきなりラジオ局の偉い方がお越しになったかと思うとその場で放送日と枠が決まるという即決ぶりです、さすがにビビった私が当時の EC 研究会主査に「さすがにやりすぎですよ」とメールをしたら「楽しいことはどんどんやってください」と梯子を外され早9年になります。ラジオにお越しいただくゲストの選定も私自身でやっていますが、その時点で私が今まであまり話したことがない方で、かつこの人とお近づきになりたい、と感じた方を選ぶことでさらに人の輪が広がっていきまして現在に至ります。とはいえ、それでもなお、同じ分野の研究者全員とお近づきになれたわけでは決してないので研究業界というのは広いのだなあと感じます。

ただ、人の繋がりというのはその上で情報や仕事が行き交うことも意味するわけで、確かにくらもとからも仕事を数多くお願いしまくっていますし、私1人ではとても集められない質と量の情報が飛び交う場所にいられることは、人生を左右するレベルで有益なことも多くそれこそ感謝の気持ちが溢れんばかりですが、同時にたくさんの仕事が舞い込んでくるということも含意します。長く業界にいれば人となりは伝わるもので、なるほどこれは私に回ってくるだろうな、という仕事が重鎮や著名な方からずばりさりと回ってきて、査読や原稿や自分の研究と並走せざるを得なくなる大変な時期もあるわけですが、それを織り込んででも人の繋がりというものは、自分1人では行けない世界を体験させてくれる大事なものののだ、と改めて認識したところで紙幅も尽きた模様です。

さて、編集委員からは「学会誌に近い方を」と依頼されて受け取ったバトンですが、次は人工知能『学会誌』で「2069年からの手紙」という新しい試みを始められた竹内ゆうすけ氏にお渡しします。学会誌でほかの学会誌のお話をするという離れ業ですが、どうぞよろしくお願いたします。